
やさいころころ

いずみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やさいころころ

【Nコード】

N4756V

【作者名】

いずみ

【あらすじ】

やさいが転がってくる坂のはなし。他サイトで公開中のものです。

とある街に、やさい坂という坂がありました。それはふしぎな坂でして、毎日夕方になりますと、坂の上のほうからころころと、いくつものやさいが転がってくるのです。にんじんかぼちゃ、たまねぎおいも。やさいはどれもおいしくて、一体だれが転がしているのか、確かめようとする人もいましたが、結局だれも分かりませんでした。

その街では、やさい坂にそって家家が立ちならんでいて、みな夕方になると坂へ出て、転がってくるやさいを拾って家へ持って帰ります。坂の上のほうに住む人は、毎日たくさんのやさいを持って帰りますが、下のほうに住む人は、上に住む人がやさいを取ってしまうせいで、なかなかやさいを拾うことができずに、まずしいくらしをしていたのでした。

ある日のこと、その街にひとりの詩人がやってきました。詩人は街の人からやさい坂の話の聞きますと、すぐにやさい坂をのぼりました。そしてその日の夕方、やさい坂に、やさいはひとつも転がってはいませんでした。やさいはぜんぶ、転がるまえに詩人が持つて行ってしまったからです。やさいを待つていた街の人たちはたいそう腹をたてて、詩人をつかまえようと、手分けしてさがし始めたのでした。

坂の下の空家に、その詩人はおりました。ようやく詩人を見つけ、た街の人が、空家のとびらをあけますと、家のなかにはシチューのいいにおいがただよっていました。詩人は、やさい坂のやさいと空家のろをつかい、シチューを作っていたのでした。詩人は街の人たちがやってきたことに気づくと、にっこり笑ってこう言ったのでし

た。ちょうどいい時に来てくださいました。もうすぐできあがりますので、いっしょに食べませんか？――。

その夜は、とても楽しいものになりました。坂の上に住む人も下に住む人も、やってきた詩人も、同じおいしいシチューを食べて、みなで笑いあいました。シチューのあたたかなゆげが、街の人や詩人をつつんでいました。

やさいがころころ転がる街に、ひとりの“詩”人がやってきて、“ろ”をつかって街の人を幸せにしたというお話です。

――やさ いころころ、やさしいこころ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4756v/>

やさいころころ

2011年11月11日05時37分発行